

令和 2 年 5 月 25 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02356

研究課題名(和文) 渡部コレクションに基づくアニメ制作過程の実態研究

研究課題名(英文) Research of the Material Dynamics of Anime Production on the Basis of the Watanabe Collection

研究代表者

Kim Joon Yang (KIM, Joon Yang)

新潟大学・人文社会科学系・准教授

研究者番号：00749955

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：アニメ制作現場で渡部英雄が長年活動しながら保管してきた渡部コレクションの資料体に対し実施された本研究は、メタデータ作成をはじめアーカイブ化およびデジタル化を進めると同時に、国内外の研究者との資料共有と協力関係を進展させ、絵コンテなど中間素材への実証的調査と学際的方法による分析の結果を提出した。研究の遂行によりアニメ制作の実態を検証し、作品の生成過程を理論的に解明し、さらにセル画保存に向けての化学的調査を着手することができた。アーカイブ化した資料の活用と研究成果の公開の実践として、研究者のみならず一般市民向けの講演や展示を国内外で行い本研究に対する学術的・社会的関心と理解を拡大、深化させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、アニメ制作現場で生み出された膨大な中間素材のアーカイブ化を実行、活用しつつ、アニメ業界の実作者および海外研究者らとの積極的な協力を通して、完成作品の映像表現のみならず、アニメの制作工程とそのグローバルな生産体制の実態を最新の理論および方法論から明らかにした。この成果により、廃棄の危機に瀕しているアニメ中間素材が持つ学術的・社会的有効性を国内外に向け立証し、日本のアニメについてより幅広い実証的研究が可能となる基盤を構築した。なお本研究成果に基づいた発表・展示を研究期間中に企画、国内外で展開し、学界・業界・自治体における相互発展的な信頼関係および国際的な研究ネットワークの強化に貢献した。

研究成果の概要(英文)：Conducted with the Watanabe Collection whose materials were kept by Watanabe Hideo involved in anime productions for a long time, this research project presented findings through archiving and digitalizing the Collection as well as creating its metadata, while examining the storyboards and other raw/intermediate materials in a demonstrative and interdisciplinary approach, by sharing and collaborating them with scholars in Japan and abroad. These research activities led to clarifying material realities of anime productions, elucidating the creating processes of anime works, and further starting a chemical examination for the conservation of cel drawings. In an attempt to utilize the archived materials and share the research findings, talk events and exhibitions for scholars and general public were held at home and abroad, thereby expanding and deepening their attention to and understanding of the project's subject.

研究分野：アニメーション研究

キーワード：アニメ中間素材 アニメ研究 アーカイブ セル画の保存

1. 研究開始当初の背景

本研究は、1970年代後半から1990年代半ばまで『北斗の拳2』などの演出家として活動した渡部英雄との学術的交流から始まる。2015年12月、渡部が現役時代から保管していたアニメの絵コンテ、原画、セルなど膨大な中間素材(以下、渡部コレクション)が、本研究代表者(キム・ジュニアン)の所属大学(新潟大学)に一任された。それを契機に、本研究代表者の所属大学内にアニメ・アーカイブ研究センター(当時代表:キム・ジュニアン)が渡部コレクションの受け入れ先として設立され、段ボールで10箱以上に及ぶアニメ中間素材の整理調査が開始された。2016年には同コレクションの資料体に対するメタデータのカatalog化およびデジタル化が進んだ。

アニメが完成するまでには、キャラクター設定、絵コンテ、原画、中割りなど多種多様な中間素材が産出される。これらの中間素材は、制作過程の実態を示す重要な一次資料であるものの、産業の外部からは容易にアクセスできるものではない。その一方で、デジタル化が急速に進む制作現場では中間素材の保管に苦渋しており、廃棄処分されるものが大半である。アーキヴィストの植野淳子(2014、161頁)は、後世への文化継承と次世代の人材育成ができなくなると懸念する業界の現状認識を報告している。現に日本映画に関する貴重な牧野守コレクションが米コロンビア大学に買収され、日本映画研究を国内で十全に遂行できなくなっているが(Masuda、2016)、アニメについても同様の事態が起きても不思議ではない。

アニメ文化に迫る危機を認識する本研究は、代表者のキム・ジュニアン(アニメーション理論)と石田美紀(新潟大学、アニメ史)を中心とし、アーカイブ構築に関しては原田健一(新潟大学、アーカイブ論)が、映像保存・映画生成研究に関しては板倉史明(神戸大学、元東京国立近代美術館フィルムセンター研究員)が参加する体制を構築した。さらに同コレクションの提供者の渡部英雄が実作者としての経験に基づく情報を本研究チームに提供する。アニメ研究と制作、そして映像資料保存とアーカイブ構築の専門家が協力する本研究は、スタジオ単位からスタッフ個人の裁量に至る様々な位相において産み出され使用された中間素材を根拠に、アニメの生成段階の実態を解明し、その文化的・社会的意義を実証することを目指す。

2. 研究の目的

本研究は、1970年代からおよそ20年間アニメ制作の現場で演出、原画、制作進行、撮影などスタッフとして活動した渡部英雄により一任された絵コンテ、各種設定集、脚本、セル画、原画、動画等アニメ中間素材を整理分析し、渡部への聞き取り調査を行う。現在、アニメは国内外で注目を集めている。しかしアニメ制作過程において産出される上記のような中間素材は部外者によるアクセスが難しいばかりか、制作現場において制作終了後に廃棄されるのが大半である。結果、従来の学術的な意味での「アニメ研究」はこれら中間素材を無視して行われてきた。本研究の目的は、それらのアニメ中間素材を整理し、そこに記載された情報を分析することでスタジオにおける制作過程と作業実態を実証的に解明すること、さらに研究者および制作者が参照可能なデータベースを構築することでアニメ文化の保全と後世への継承を促進することにある。

(1) 課題【1】渡部コレクションの体系的なアーカイブ化

渡部コレクションには、アニメ制作過程におけるキャラクターや背景などの設定画、絵コンテ、セル画、アフレコ用脚本に加え、作画の参考に用いられた雑誌資料から現場のスタッフ個人による上書きのメモに至るまで、多種多様な素材が含まれる。だがその多くは、どの作品の、どの段階で、誰が作成し使ったのか、というメタデータが明示されていない。中には現在観られない作品の素材さえも確認されている。従って優先課題としては、同コレクションの各資料に対する整理と適切な保存作業を行いつつ、制作・公開年、スタジオ、作品名、担当スタッフなどの詳細データを同定する精密な調査・記録を進める。

(2) 課題【2】渡部コレクションに基づく制作現場の実態の検証

課題【1】と並行して、渡部コレクションに含まれる中間素材がどのような経緯で作成・使用されたのかについて分析・検証を行う。その際に重視するのは、素材に記載されたスタジオからの指示や変更事項、および各スタッフによるメモ書きである(図1参照)。課題【2】は、実際に当該の中間素材を使用しアニメを制作していた渡部による検証とヒヤリング調査を通して、それらの情報を解析しアニメ制作の実態を明らかにすることである。

また日本国内だけでなく、アメリカおよび韓国など海外との受発注制作に関連する素材が存在する。そのため、課題【2】は以下の二方向に向けて進められる。

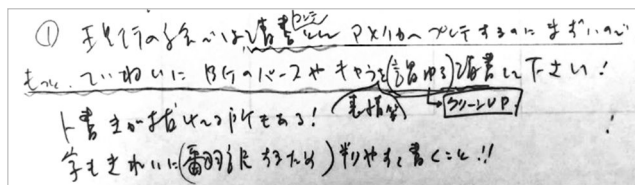


図1 渡部コレクションのアニメ中間素材の一例

国内調査: 渡部コレクションは複数のスタジオが作品制作に関わる受発注関係の複雑さを示している。各スタジオ・各スタッフは、ど

のような体制やスタンスを取っていたのかについて、渡部による検証と渡部からのヒヤリング調査に加え、当該スタジオ・スタッフ関係者についても同様の検証と調査を行う。

海外調査：渡部コレクションには、米 **Rankin/Bass Productions** からの日本へ受注された **ThunderCats**、日本から韓国へ発注された『SF 西遊記スタージーンガー』の中間素材が存在する。それら素材に記載された英語やハングルによる指示事項は、アニメーションの国際的製作を明らかにするに重要な手がかりである。本研究代表者がすでに交流関係を築いている、米シカゴの **Rankin/Bass** アーカイブ関係者および韓国の大元動画の元スタッフへのさらなるヒヤリング調査を行う。

(3) 課題【3】アニメ制作実態に基づく理論的視座の構築と作品研究の推進

課題【1】および【2】の調査から解明する制作過程と完成品の状態を照合し、アニメ制作に関する理論的視座の構築と作品研究を推進する。その際に、ハリウッド・アニメーション研究者ドナルド・クラフトンらが提唱する行為遂行論的アプローチ、および板倉史明による日本映画・戦前アニメーションに関する生成論研究をも参照する。

(4) 課題【4】アニメ中間素材を生かした社会向け公開についての考察

アニメ中間素材を活かし、社会一般に向けアニメに対する理解を深化させたことで高く評価されるスタジオジブリ・レイアウト展を参照しつつ、国内外から研究者、アーカイブ専門家、アニメ業界関係者を招いた研究会やシンポジウムを開き、本研究の成果を発表すると同時に、アニメ中間素材を展示する方策について議論する。また本研究の成果の出版（英文）に加え、展示形式でも公開を検討する。

3 . 研究の方法

本研究は、【1】アニメ中間素材のアーカイブ化、【2】同素材を根拠にしたアニメ制作現場の実態検証、【3】アニメ生産レベルにおける理論的作品研究、【4】アニメ中間素材の学術的・社会的活用方法に関する考察を行う。諸素材のデジタル・アーカイブ化とデータベース構築を進める一方、検証・ヒヤリングによる実態調査は、デジタル化した資料を積極的に活用し行う。また当時のアニメ雑誌等入手し、メタデータの作成・補強に活用する。完成品と比較する作品研究について、当該の映像ソフトなどを入手し分析する。以上は、研究代表者に加え、研究分担者・連携研究者・研究協力者からなるチームを組織し行う。

すでに、キム・ジュニアン（研究代表者）と石田美紀（研究分担者）は、新潟大学において地域映像アーカイブの構築・運営を行う原田健一（研究分担者）から助言を受け、渡部コレクションの整理・分類・スキャンニング・保存処理を進めている。基本的レベルのアーカイビング作業は現時点（平成 28 年）の年度末頃に約 50% の完了が見込まれるが、メタデータの作成をはじめ本格的な資料分析は未着手である。学術的精度を備えたアニメ中間素材研究を遂行するため、以下の体制を構築する。

本研究が対象にしている資料の提供者であり、制作当事者である渡部は、アニメ中間素材の一次的検証に加わる。渡部はアニメ演出術に関する研究経歴も有しており、本研究の分担者として位置づける。さらに連携研究者として澤村明（文化経済学）が知的財産権関連事項を担当する。研究協力者として、日本アニメスタジオ史家の原口正宏、アニメーション・プロデューサーの野口光一、海外からは韓国大元動画の元スタッフのミン・ギョンジョ（現在アニメーション映画監督）およびキム・ジェホ（現在白石芸術大学教授）、Rankin/Bass アーカイブ責任者の Rick Goldschmidt が加わり、資料検証・ヒヤリング調査・アニメ業界との連携構築を務める。またアニメ中間素材の量に鑑み、資料整理を行うスタッフ 1 名を雇用する。課題【1】～【4】の研究方法については以下の通りである。

(1) 平成 29 年度

【1】中性紙等保存用品やデジタル機材の補充を行い、渡部コレクションのアーカイブ化の速度を上げ、渡部コレクションの資料体上の諸情報を記録・分析する作業を進める。アニメ雑誌等の文献を購入し、資料体上に明示されていない作品名、スタジオ名のメタデータ作成を行う。【2- 】各資料体について詳細な検証・ヒヤリング調査を分担者の渡部と一緒に、関連会社（東映アニメーションなど）と情報を共有する。その成果を制作現場に関する当時の記事などの文献調査によって補強する。【2- 』『SF 西遊記スタージーンガー』など日本から韓国への発注作品（図 2 参照）や ThunderCats などアメリカから日本への発注作品について、それぞれ韓国のミン・ギョンジョ監督およびキム・ジェホ教授、アメリカの Rankin/Bass アーカイブ責任者である Rick Goldschmidt と連絡を取りつつ、平成 30 年

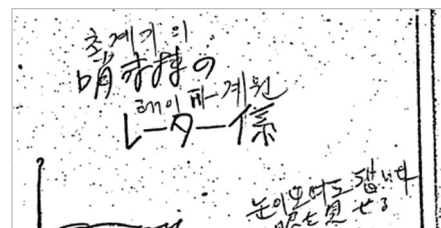


図 2 韓国へ発注された
アニメ作品の中間素材（断片）

度の本格的ヒヤリングに向けての予備調査を行う。【3】『銀河鉄道 999』など完成品がソフト化され、視聴が可能な作品については、中間素材の分析・検証がまとまり次第、生成段階と完成状態の比較調査に着手する。

(2) 平成30年度

【1】と【2- 】に関しては、前年度の課題を踏まえつつ、渡部コレクションのデータベースを構築する。【2- 】海外との受発注関係の中間素材に関する前年度の予備調査を踏まえ、韓国、アメリカに赴き、当時のスタッフ・関係者へのヒヤリングと、当該作品にかかわる現地資料の調査を行う。【3】完成作品の資料を入手し、当該の中間素材に照合しつつ、『SF 西遊記スタージガー』、『夢戦士ウィングマン』などアニメーション作品に対する行為遂行性理論や生成論の作品研究を進める。【4】アニメ中間素材の学術的・社会的意味とその活用に関する国際会議を、アニメ業界側と協議しつつ、シンガポールの LASALLE College of the Arts と開催し研究発表や意見交換を行う。

(3) 令和1年度

【1】と【2】の課題を継続、総合しつつ、その蓄積を分担者、協力者と共有し活用することで、【3】アニメ中間素材、特にアフレコ用脚本、原画・動画に対する実証的調査とそれに基づいた理論的考察を行う。セル画の管理・保存を目的とする工学的実験と解析に関しては材料化学研究者の三俣哲(新潟大学)が協力者として参加し、アニメーション美学との文理融合型研究を推進する。アニメーション美学からのアプローチでは、セル画を構成する素材のアニメーション史における文脈および詳細を明らかにし、材料化学からのアプローチでは、セル画の文化的価値と老朽化による脆弱性を想定し、最初の段階として非破壊方式で調査する。【4】アニメ中間素材の学術的・社会的意味とその活用に関する国際会議、講演会、展示会を、アニメ業界側と協議しつつ、スウェーデンの Stockholm University など海外の研究機関および自治社会にて開催し、研究発表や意見交換を行うと同時に、本研究課題に対する学術的・社会的理解の拡大を図る。

4. 研究成果

(1) 中間素材から判明したアニメ制作システムおよびトランスジョナルな制作実態

本研究課題の一次資料である渡部コレクションは、科研費応募前の2015年末から、採択決定後の2017年に渡り第1期の一任資料として段ボール15箱のアニメ中間素材が新潟大学アニメ・アーカイブ研究センターに届いた。同センターの代表および研究メンバーである本研究代表者と研究分担者は、中性紙等保存用品やデジタル機材の補充を行いアーカイブ化の速度を上げ、各資料体上の諸情報を記録・分析する作業を進めた。

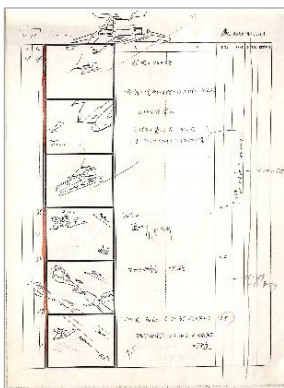


図3 本研究で調査対象になった絵コンテ

結果、基本的なデータベースが完成し、そのデータを用いたうえ、コレクションの各素材について分担者の渡部をはじめとするアニメ業界関係者への検証・ヒヤリング調査を複数行うことで、同業界の制作工程における意思疎通の流れ、中間素材の確立したシステムとしての地位、演出指示の徹底した意図性とそのための共通言語の存在など詳細が明らかになった。

さらに海外との受発注関係のアニメ中間素材に関する調査のためには韓国ソウルに赴き、1980年代半ばに韓国の大元動画社のスタッフとして東映アニメーション社で研修していたミン・ギョンジョ氏、キム・ジェホ氏へのヒヤリング調査を行った。このヒヤリング調査に併せて、同じ1980年代にアメリカから発注された仕事にもかかわっていた渡部へのヒヤリングを行い、アメリカ・日本・韓国以上三国間のトランスナショナルなアニメーション生産における人材配置、物流、通訳、演出スタイルの相違など実態が判明した。

(2) 絵コンテおよびアフレコ台本の物質的・実証的検証

以上のヒヤリングに基づいてメタデータの分析・検証結果を終えたアニメ中間素材については、完成作品の視聴が可能な場合、生成段階と完成状態との比較を行い、以下を解明した。

まずは、制作工程における絵コンテの役割を、絵コンテに書き込まれた演出指示と行為遂行性理論の照合から分析した。絵コンテを介して、スタッフは映像史を互いに参照し、画面上の人物・物体に関してパフォーマンスの語彙を共有していたことを証明した(図3参照)。次に、絵コンテ制作前の脚本と、絵コンテに基づいて制作されるアフレコ台本の異同に着目し、アフレコ台本上の句読点と三点リーダーの分析から、キャラクターの動きとセリフの関係を明らかにした。

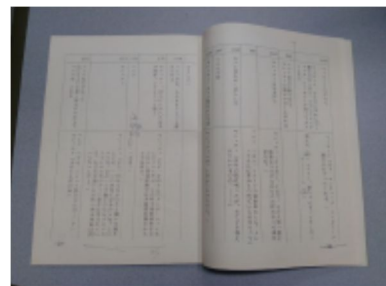


図4 本研究で調査対象になったアフレコ台本

声優と制作スタッフとの緊密な協同関係、特に前者の演技の独自性を実証した（図4参照）。

（3）国際的学術ネットワークによる研究の推進

本研究には、代表者および分担者に加え、海外の研究者らが協力し、渡部コレクションの調査に従事した。特に、Gan Sheuo Hui (LASALLE College of the Art)、Dario Lolli (Loughborough University)、Verina Gfader (City University of Hong Kong)、Ida Kirkegaard (Stockholm University)、Jaqueline Berndt (Stockholm University)は、アニメーション研究、メディア論、日本研究、マンガ研究におけるアプローチを取りつつ、本研究期間中にアニメ中間素材のアーカイブや渡部コレクションに関する国際会議、展示、ワークショップ、公開講演、論文の発表など多様な形で本研究に貢献し成果を挙げた。

（4）セル画素材の分析における文理融合型研究の実践

最終年度には、アニメ中間素材のいっそうの長期的研究必要性を視野に入れ、アニメ制作スタジオでも緊急課題として認識されているセル画の保存・管理についての文理融合型研究に着手した。材料工学の研究者と協力し、セル画の保存・管理の意義、高分子素材であるセルロイドの開発史、アニメーション産業への導入、セルによる視覚経験への現象学的影響などを明確にしつつ、同素材に対する初期段階の化学的実験と解析を行った。セル画の保存を優先するという見地から非破壊検査方式を採用し、電気物性を測定した結果、検査対象のセルの化学成分が硝酸セルロースということが判明した。これは、日本のアニメ産業におけるセルロイドの歴史的変遷にほぼ合致する結果である。さらに走査電子顕微鏡でセル画と接着状態にある作画紙の表面モルフォロジーを調査することで、セル画の保存・管理に向けての研究の可能性と方向性をアニメ業界および社会に提供した（図5参照）。

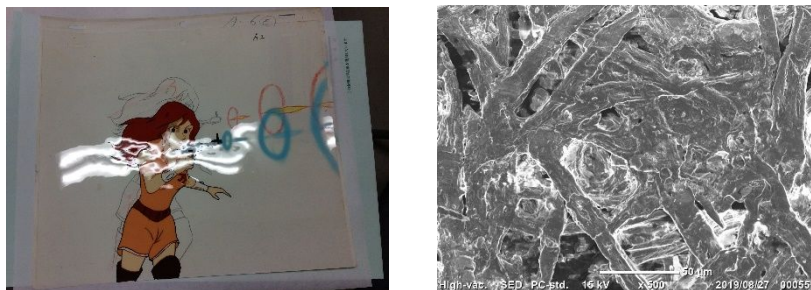


図5 本研究で調査対象になったセル画素材と作画紙の走査電子顕微鏡写真画像

（5）英文論文集2巻の編集発行による研究成果の公開

以上、渡部コレクションのアニメ中間素材に基づいた本研究の成果は、研究代表者キム・ジュニアンと研究分担者石田美紀の共編著により、論集 Archiving Movements, Vol.1、Vol.2として出版された。2巻の論集は、本研究成果の国際的なアニメーション研究界における普及を目指し、全文英語で執筆或いは翻訳され、紙媒体の発行に加えインターネットでも公開されている。特に、第1巻は、海外の研究者による書評において高い評価を得た。

（6）研究成果の一般市民への公開と社会貢献

本研究は、理論的基礎と方法論に基づき、実証的な研究を進めると同時に、渡部コレクションをはじめとするアーカイブの活用と研究成果の公開を実践する試みとして、アニメ中間素材に対する社会的理解を広げるための活動を展開した。渡部コレクションが所蔵されている新潟大学構内展示空間をはじめ、シンガポールの LASALLE College of the Arts スウェーデンの Stockholm University、イギリスの Birkbeck, University of London において座談会、シンポジウム、セミナーなどを主催、共催、協力、参加し、それに併せアニメ業界の各社と協力しつつ、展示会を開くことで、アニメ中間素材に対する社会的関心をより一層可視化・拡大させることができた。

<引用文献>

植野淳子(2014)「未来の日本のアニメーションアーカイブスを目指して」、福井健策・吉見俊哉 監修『アーカイブ立国宣言』ポット出版、159 - 173。

Masuda, Miki (2016) Project completed - the Makino Mamoru Collection on the history of East Asian film, 1863-2015 [Bulk Dates: 1920s-1990s]: a new beginning of East Asian film studies and beyond. Makino Collection Blog: Archiving East Asian Film Studies at Starr Library, February 25, 2016, (accessed April 1, 2017, <https://blogs.cul.columbia.edu/makino/>).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 渡部英雄	4. 巻 第31巻第7号
2. 論文標題 国際分業が支えるアニメ制作	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際人流	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 石田美紀、キム・ジュニアン
2. 発表標題 大学でアニメ中間素材を保存し研究すること：アニメ・アーカイブ研究センターとは
3. 学会等名 市民向け講演会・公開討論会「大衆文化を資源として捉え直す：レコードからアニメへ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KIM Joon Yang
2. 発表標題 Kinaesthetic Fields of Force and Heterogeneous Agents in Animation Film
3. 学会等名 Seminar "Anime: Animation and New Life" at Birkbeck, University of London (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KIM Joon Yang
2. 発表標題 What Intermediate Materials of Anime Tell Us about: My Micro-Analytic Approach
3. 学会等名 Academic Symposium Archiving Anime: Materiality, Media and Japan (Sweden) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ISHIDA Minori
2. 発表標題 Utilizing the Intermediate Materials of Anime: Royal Space Force: The Wings of Honneamise
3. 学会等名 Academic Symposium Archiving Anime: Materiality, Media and Japan (Sweden) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 HARADA Kenichi
2. 発表標題 Analyzing “Regional Communities” with “Visual Media” and “Materials”
3. 学会等名 Academic Symposium Archiving Anime: Materiality, Media and Japan (Sweden) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石田美紀
2. 発表標題 アニメ映画中間素材とアーカイブ
3. 学会等名 日本学術会議哲学委員会 芸術と文化環境分科会 公開シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ISHIDA Minori
2. 発表標題 Utilizing the Intermediate Materials of Anime: Royal Space Force: The Wings of Honneamise
3. 学会等名 Anime. Una perspectiva transdisciplinar. (Spain) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡部英雄
2. 発表標題 アニメーション業界の制作現場に於ける演出技術と方法
3. 学会等名 日本映像学会・日本アニメーション学会合同主催アニメーション研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 キム・ジュニアン、石田美紀
2. 発表標題 Crux of Archiving Intermediate Materials of Anime
3. 学会等名 Archiving Popular Culture (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 原田健一
2. 発表標題 Region and Image: What Can We Do with a Digital Archive?
3. 学会等名 Archiving Popular Culture (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Kim Joon Yang and Ishida Minori	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Archive Center for Anime Studies, Niigata University	5. 総ページ数 95
3. 書名 Archiving Movements: Short Essays on Anime and Visual Media Materials V.2	

1. 著者名 KIM Joon Yang and ISHIDA Minori	4. 発行年 2019年
2. 出版社 The Archive Center for Anime Studies in Niigata University	5. 総ページ数 48
3. 書名 Archiving Movements: Short Essays on Materials of Anime and Visual Media	

1. 著者名 原田健一、水島久光編著（第8章執筆：キム・ジュニアン、石田美紀共著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 328
3. 書名 手と足と眼と耳：地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	板倉 史明 (Itakura Fumiaki) (20415623)	神戸大学・国際文化学研究所・准教授 (14501)	
研究分担者	石田 美紀 (Ishida Minori) (70425007)	新潟大学・人文社会科学系・教授 (13101)	
研究分担者	原田 健一 (Harada Kenichi) (70449255)	新潟大学・人文社会科学系・教授 (13101)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡部 英雄 (Watanabe Hideo) (90633644)	桜美林大学・総合研究機構 ・ 科研研究員 (32605)	
研究協力者	三俣 哲 (Mitsumata Tetsu)		
研究協力者	今井 博英 (Imai Hiroei)		
研究協力者	野口 光一 (Noguchi Koichi)		
研究協力者	原口 正宏 (Haraguchi Masahiro)		
研究協力者	ベルント ジャクリーヌ (Berndt Jaqueline)		
研究協力者	ロッシ ダリオ (Lolli Dario)		
研究協力者	グファーター ヴェリーナ (Gfader Verina)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	キルケゴール イーダ (Kirkegaard Ida)		
研究協力者	顔 暁暉 (Gan Sheuo Hui)		
研究協力者	ゴールドシュミット リック (Goldschmidt Rick)		
連携研究者	澤村 明 (Sawamura Akira) (40334643)	新潟大学・人文社会・教育科学系・教授 (13101)	